笠袋　弓袋

小旗

小旗之次第

付手旗之大事



五段田[illegible]院





笠袋弓袋　一







笠縫篇

くりあきの寸

菊とぢむきひめ八分
あのきし一寸ツヽ延
三寸八分なり



しとゝ
新[illegible]

一 山形ハ出ミ
さしたる様子ハ見え
こゝろを出しことも見え
いゝ也しもの
かふきをいふ

一 まゐらせ候かしく
一 まいる 御尋
こともぞ候

紋ハ中ちしのかさ付
て付庭し紋ハ三ツ之

[illegible]

表紋 紋ニツ付へ

めはゆひ付るなし



かうらいのなかさ
一尺二寸程ハ五寸程
文枚の紋かすかくら
そめかへし

かうらいの廣サ
一寸八分
蜻蛉本のやによて

弓袋図

[illegible]

[illegible]

[illegible]



一 しを
いろ〳〵紫地
りうきうこん地





[illegible]

[illegible]

[illegible]

小笠原大膳大夫

長時

同右近大夫
　定慶
光長卿
　定成

右近一ま懇親之ハ
婦ニ縁実ニ不可然也

見候也

元和壬戌年　堀平吏

八月十二日　長勝

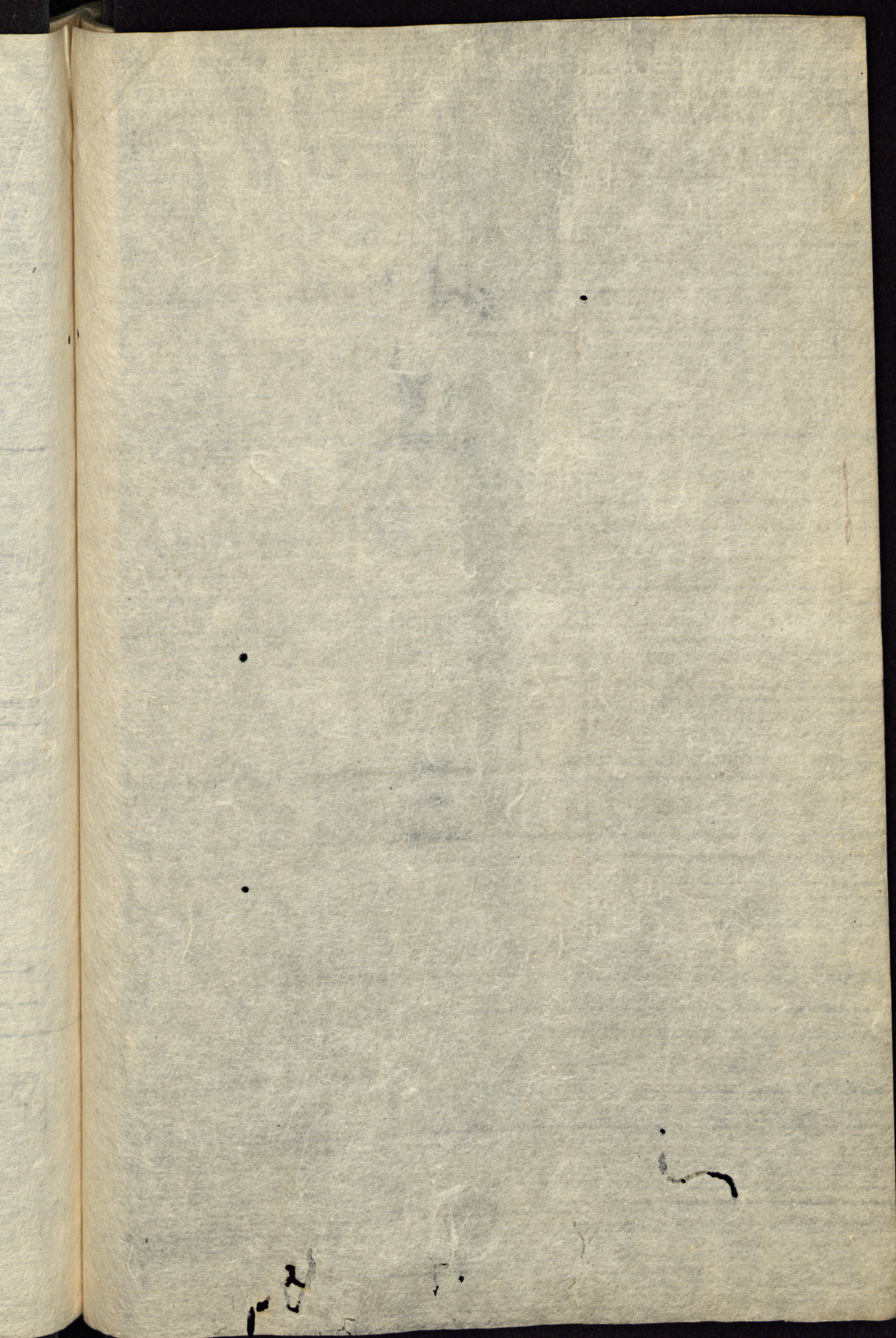


河村百右衛門殿

参

小旗

三

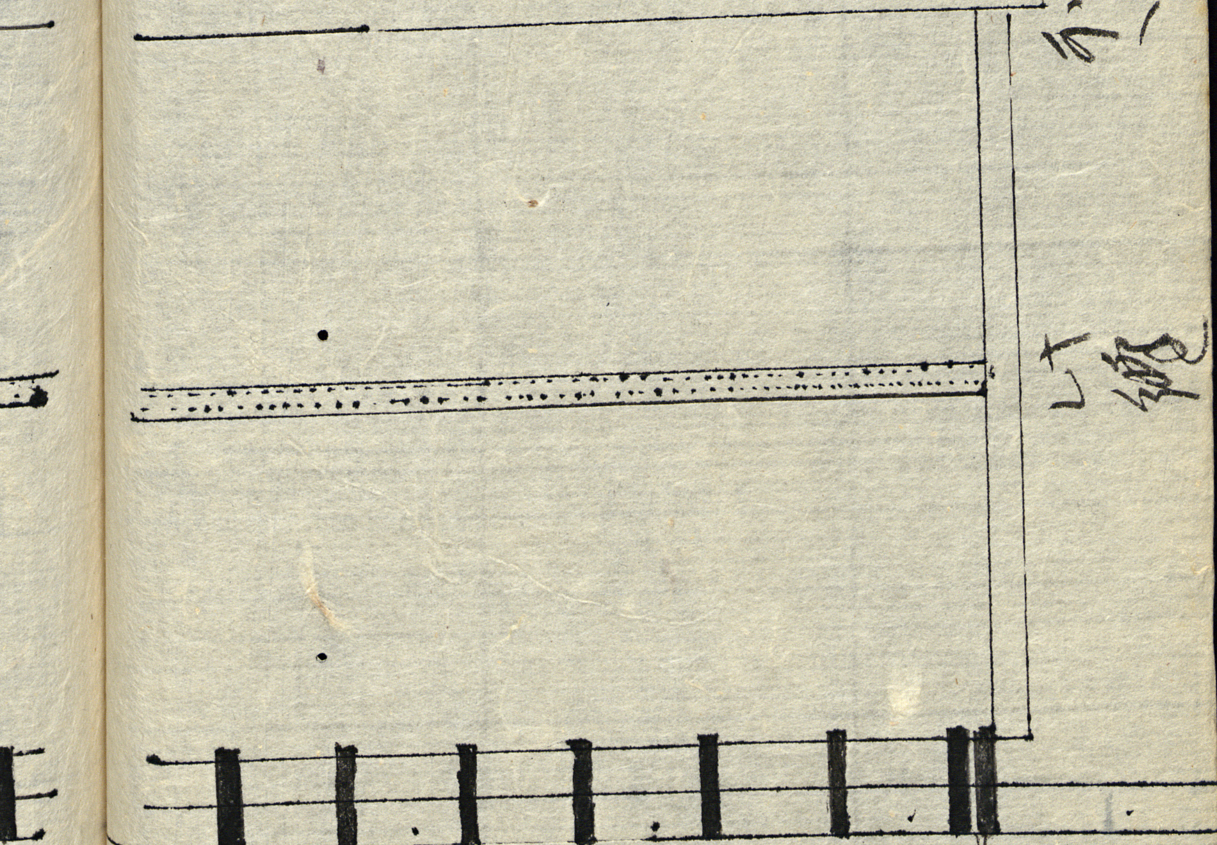


方へまくりめして

目ハかきぬいて

孔一而よ三ッ付へ一

し



風

隆宮神



合乳乃数九八但九八八分一九ミ九七

小旗仕立様大小の儀ハ宜敷好ミ次第

幕ハさまさまあれとすくなくして乳の数拾
廿六又八へましく又ちいさくして十二九ツ
七ツもましく毎方はしとハ外の方へ下ヽも
経打てぬふへし乳のなかさハ竿ニ付留
幕と同前之但小旗の大小ニよりて乳を
ますへしみしかくもすへき之旗竿定之也
同し二付ル乳をもちいさくしてもよし夫ニ
旗ニ乳乃付やう随月ハ九字又ハ外叶ニて付
一 吉日吉時を定むへし

少監原大臣大史　長時

同　右近大史　貞慶

中臣長忠　貞成

右一巻懇望之間不顧之也
他見无用者也

元和五年
正月吉日　海平太夫

長勝



小筵之次第 巳

小旗之仕方

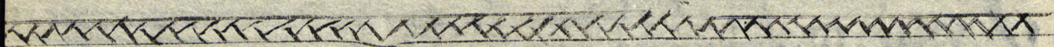


和ノ方海ゟ縫之

此縫目ニもとめし

九字　下乃乱一両ニ二ツ付候

五形





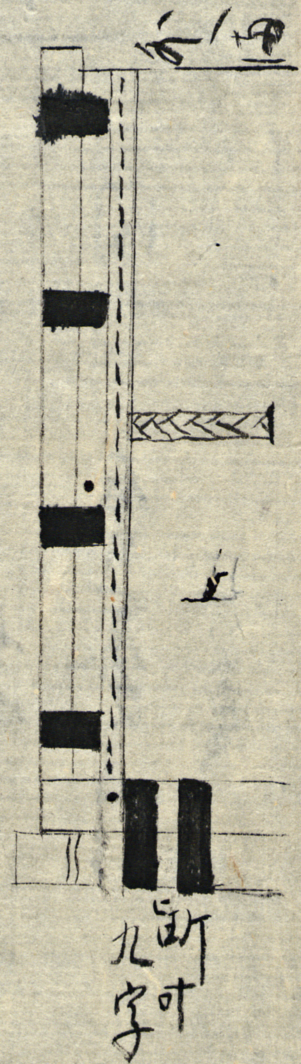
八幡大菩薩

天照皇大神宮

春日大明神



一 小旗は立旗大中之儀ハ次第まては
異なる事なし長サにして乳数ハ六ツ亦其紙
又ハかりて指二九ツ七ツと縫にある時ハ其幅
を弁乃方へ五分ヶとれて縫取し
乳のまさ〳〵にて竿に付る所幕と同じ
但小旗ハ大小ともつける乳乃長さ



小額くも寸法之极實ある一き
事斷要之同上ヨ付し乱もか
ちいさくてもかんときき様ヨテ付様
縦同之九字乃形ゆうく付へし
ヨキ時ヲ撰へき事之秀く傳へし

豊原大膳大夫
長時

同

豊道大夫
貞慶

小池長之丞 貞成

沢本三右衛門 一成

右卅一巻消息秘事迄
進之候、努力々々深秘可也
仍而如件也

付手強く丈夫

也

付手旗ノ大更

付手旗ノ長サ三尺七寸ハシノ廣サ一尺

八寸ニ取テ余ルヲカキノケテ可縫合七寸

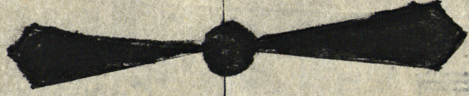
ヲハ縫ハツシテ吉カキノノ方ヲハ内ヘヒテ


天
日
天
月
八幡大
天照皇大神
春日大

八幡菩薩

上宮

八明神





ツキサホウラ　ノツキサホノ長サ一丈五尺ナレ足大將ノコ

ツキサホ

ハタサホノ長サ一丈三尺又ハ二丈八寸ニ死ルニ

セミクチトシホウムスフヘシ

コシルシホ

旗之長四尺八寸又七尺八分ニモスル也
七尺八分之時ハ縫ハツシ一尺八寸二分
可成七尺八分之時ハ布成ル二幅ヲ
ラヘヲ縫合テ吉其時ハ横手之[illegible]束草

ヲモ縫クルムヘシ一尺モスル之菊閉二寸ゝ
両方共ニ釼先成ヘシ仕立様ゝ書付
手旗ト同前ゝ
竿ゝ長サ一丈五尺亦一丈五尺八寸ニモスル之
節ハ大概ナハ也輝口ノ上下一寸ツヽ貫テ
黒クスルヘシ巻目之間廿宗ホウ首ヲ可結
御簱可着トシホウヲモホ染テ吉アイ革
ヲ丸ツクリケテトシホサヲヽ可結也

御旗之手着時之誦文曰

十方世界摩利支尊天天北斗討大白星
辰皆来守護急如律令ト三返可備

公方様或大名之御旗之次第

長サ一丈八尺或一丈七尺二分或二丈ニモ被召モノ也其ハ御時ニヨリ替ル者也御旗ハ一丈八尺ノ時ハ八幡殿之御代モ竿ノ長サ二丈也御旗一丈八分之時ハ竿ノ長サ一丈五尺也

口傳有此旗之儀　公方様大名ノ家中ニ多可有此籏ヲ手長ノ御旗ト申也

御旗之天乏　九字四竪五横アリ一モシ威ヲソヘタリ亦横手ニ習アリ秘密々々

源氏者白布ニテ被召従其今其ハ吉

例ヲ被成也乍去緒ノ御旗ニモ有但サレ
ニシキニハナシ御旗之手可着神名之
大吏ノ有習サホウノ先我死之方之
上ニ折覆テ東向テ二三者タレ結テ鷹
ヲツナリヤウ可結
御旗上候時者手之先ニテカイニツリ
シタタメ可申口傳ニ有也
御旗ハ守護之次第有
御旗ハサレノ馬ヨリ前ニ一手一可打御旗
サシノ後陣ヲ貴ハ號ノ可打是御馬参ト
申テ貴ハ號之陣ナルヘシ

御旗之竿ハ習有

男竹女竹トテ二本可用口傳有一本ハ
旗サホ之一本ハコシルシサホ也
御旗ヲハ中門之妻戸ノ前ニテ可着只
大庭ヘ御出陳之時ハ御旗持ノ方ヘ
可渡ヤウ請ヤウアリ蝉ロヲ紙ニテ可裹ム
御旗ヲハ箱ニ入テカタニ可懸弁サシニテノ
袋ニ入テカクル也　頸
御旗カクル時頸ニカクルト不可云
東ヲハ軍陳ノ

方トテ用師也御祝言之時ハ蟬口ヲ
東ヘ向テ可付御旗ヘ申時ハ蟬口ノ先ヲ
門ノ方ヘ三ツアテ、出ス飯陳之時ハ旗ノ竿
之本ヲ内ニ入可入前後セハ不吉ナルヘシ
皇ノ御旗ハ錦也日天月天ヲ織付ヲシテ臨
時日ノ御旗ト申也赤アヤセイカウヲモ被召之
絹ヲモ被召也久陳ナトニテハ御旗ヤトリヘ
入可申具足御旗ヲカイツカミ候テ
御旗ノ手ノアマリヲ以テ結付各飯陳候間置
御旗ヲハ巻ヘタヽムキトヽ云ヘカラス工ル開ト可

申陳中之詞ハ子細有傳
宿ヘ入申時之者組次第

御旗



御酌取人之大事一番二番ヲハ直ハ位ニ可参三番目ハ加テ可参備花之膝ヲ立テ右ノヒサシイテ貴人ニ御酒ヲ可参扨其後貴人之左ノ方ヘ退散可申
御出陳之時ハ不及申戦ハ具足御召之時モ如此御酌ヲ可取後ヘ不退押テスヘカラス

小笠原大膳大夫
長時

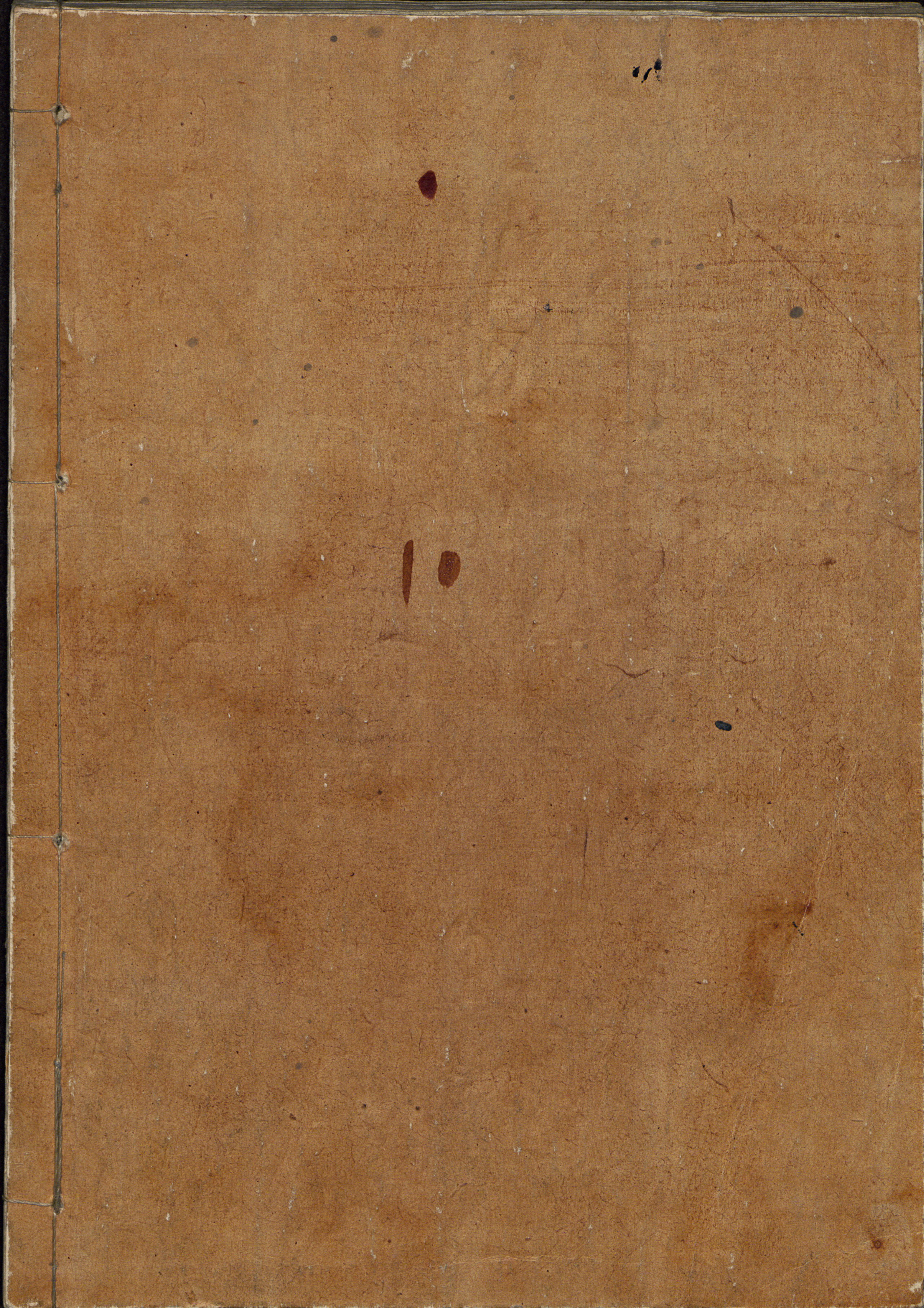
同

右近大夫
貞慶

小池甚之丞
貞成

次木三良右衛門
正成

右此一巻者当家別傳為清
秘事任多執心令庭説進之候
努々漏他不可有之候也


10



H+K 2 GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart 15.01.2002